

Entertainment Live Magazine
ぴあMUSIC COMPLEX
Vol.1

METROCK2015

白熱のステージと
ゆるゆる舞台裏

- KANA-BOON
- Perfume
- BABYMETAL
- くるり
- [Alexandros]
- ゲスの極み乙女。
- etc...

特集:

フェスを変える キーパーソン

フジロック、サマソニが果たす役割
アーティスト主導フェスの展望
国内、海外のすごい音楽フェスティバル!

第2特集:

音楽と映画 の関係

園子温、尾崎世界観(クリープハイプ)、田口トモロヲ ほか
音楽映画、映画音楽ってそもそもなに?
佐野元春ほか 音楽×映画、わたしの1本



エリイの妹サキが手がけるHachiko Project。可愛くてシュールなカラフルクッキーを手作りするほか、ハチ公新聞を発行している。「姉の新連載を祝して子供の頃に南の島で体験したイメージと今の季節を合わせて焼きました！因みに右上の鳥はオオハシです」（サキ）。エリイ曰く「姉妹なのに全く性格もやることも違う」そう。

インドとかに流れがち。土地を買いにきた外資向けホテルのパートとかに日本人はいるが、売春婦と一緒にのころしか見たことない。

そこから、シンガポールに行った。本当は行く気が無かったが、リーダーが1人でかわいそうなので、トランジットで降りた。ミーハーな人が行きたがる、プールが地平線みたく見えるホテルだった。早朝につき、そのプールサイドで、マイギャラリーオーナー藤城里香さんもちょうどアートフェアで来てたので一緒に朝日を浴びながら飲んだ。初めの一杯は爽やかなオレンジ系の何かを頼んだ気がする。何故、シンガポールに来たかといえばアジアの若手芸術家のアワードがあって、ギャラリーの人やアート関係者に推薦され、書類審査で勝ち残った人の授賞式にでるためだ。チンボムは他のギャラリーのやり手売れっ子ギャラリストの小山登美夫さんが何故か推薦してくれ、500組の審査をくぐりぬけて18組まで残りましたよ、という通知がきたの

だ。18組の中から、映像部門とか絵画部門とか6部門あって、それぞれ3組の中から1位と全体からグランプリが決まるというシステムで、正しく評価されることに慣れていなかった私たちは、何故デキレースの授賞式にいきなきゃいけないんだと、意気消沈の下の下の暗い気持ちでいた。それ以外にも、シンガポールの美術館の展示の法律が厳しくて、複製は許可がないと駄目だとか、グダグダで理不尽なやりとりに憤慨もしていたので気分是最悪だった。シンガポールに全く興味が無かったので、授賞式の洋服はブラックタイと言われていて、他の人はタキシードを仕立ててきたりしていたが、ウチらはバングラのあり合わせを着た。私はたまたま300円で買っていたセットがあった。

そうしたら優勝した。壇上スピーチで「I believed that we get this award, because we are genius! as you know.」と言っただけで、それからしばらく

くジーニアスが流行った。

その晩はジーニアスジーニアスいいながら信じられないくらい飲み、しかし、その時にできた友人からヘパリーゼをもらったため次の朝、フライトを逃さずにすんだのは奇跡で、思いがけずシンガポールが好印象となった。

その優勝の副産物が金と9月の、イギリスのサーチギャラリーというところでの個展である。金はその時の制作費としてとっておくという真面目さを発揮しつつ（何故なら誰も助けてくれないから）この間、ホワイトレインボーギャラリーというところがグループ展で呼んでくれたのでドイツに前乗りしている水野以外、下見もかねて全員でイギリスに行った。

イギリスはめっちゃ寒かったが、トークイベントをやったりギャラリー巡りをしたり、ホワイトレインボーギャラリーのたいなるサポートによりアート人生のなかでも大きな血肉になる体験をした。ドイツの話もかなりしたかったが、ここで

誌面がつきるのでまた今度！サキのクッキーはいつもバッグのなかでぐちゃぐちゃになってしまう。動物の形をしていることが多いので首がもげたりして罪悪感にかられるところも興のうち。■



エリイ

現代美術家。2005年に結成したアートティスト集団「Chim↑Pom」のメンバー。2014年6月初の写真集「エリイはいつも気持ち悪い」を発売。Chim↑Pomでは、時代のリアルに反射神経で反応し、現代社会に全力で介入した強い社会的メッセージを持つ作品で知られ、世界中の展覧会に参加中。6月、高円寺・キタコロレビル内にギャラリーをオープン。

Chim ↑ Pom エリイの 旅のお供にサキのクッキーを! Vol.1

アジアの最優秀若手賞「Prudential Eye Awards 2015」で
大賞を受賞し、アジアを代表するアーティスト集団になった
Chim ↑ Pom (チンポム)。唯一の女性メンバーであるエリイが、
妹サキの手作りクッキーを旅のお供に、世界中をまわる酔いどれ紀行。

エリイ (Chim ↑ Pom) = 文 サキ (Hachiko Project) = クッキー作成



ちょっとだけ通出したモエナモティ遺跡。仏教の後ヒンズー教の寺院としても使われ115
の僧坊跡があり悟りを開いていた場所、私も座って瞑想してみたがカレーを食べると
のみ頭に浮かんだ。彼女たちも観光客で隣の子は目が青くそのことを話している。

チンポムメンバーは酒を飲み過ぎて
いる! 戦後最大級に酒を飲む
人種を追い越し追い越せと毎夜飲
み過ぎて。飲んでもいいことは
無い。いいことが在ったという
マヤカシの中に無いキラメキ。
一歩進んで千歩後退の日々とい
うことに気付くべきで、6人いてや
っと1人の人間より4割程欠けて
いると到達できるかできないかの
ギリギリなのに、酒を飲んで頭を
ぼんやりさせるのはホントに馬
鹿げていて、毎夜数千万円を道路
にぶちまけながら歩いている行為
だよ。毎夜飲むとそれが当たり前
になる。一日飲まないでスゴク飲
まなかった気分になる。しかし、周
りを見渡してほしい。飲まない人
は次の日は頭がクリアで且つしっ
かりとした準備をし、戦場に向か
っていることを。なのにウチのメン
バーは不毛な会話を繰り返し繰り
返し……本当にくだらない、

下世話にも到達しない幼稚な話を。
いい加減にしてもらいたい。君
たちが度を越した偉人であるなら
まだいいよ。現実には先述したよ
うに6人で息も絶え絶えの厳しい
状況なのに。ほんの少しでも脳
のダメージを回避し、進まなけ
れば、地獄へ一直線だということ
を、アルコールに逃げずに、弱
さに溺れずに進め。そんな、平
均人間以下のメンバーたちと、
はからずも海外に結構行か
ねばならない。

かくいう私も日々少々飲み過ぎ
で、近頃の記憶は無く時が通り
すぎると忘却のかなたなので、
写真を見ながら遡ることにした。

今年の初めはバングラデシュ
に行った。展示会の片付けとい
う名目で旅費がでる。成田や羽
田に向かう、家を出るギリギリ
の15分前から支度をする。それ
までは何もしない。どうせ早く
支度しても出る時間は

同じだからだらだらしていたい。
昔からそうで、泥酔して六本木
からそのままインドに行ったとき
はパスポートとドン・キホーテの
ビニール袋のみだった。

そんながために、トランクやバ
ッグを持っていくときは間違え
て本当にいらぬものを入れてし
まうことも多い。この間は11冊
も本を持って行ってしまった。文
庫本は数冊、あとはハードカバ
ーや分厚い本でめっちゃ重か
った。ギリギリに支度するから、
間違えが多い。寒い国に水着を
持って行くのは茶飯事。いいん
だ、別に。だから海外旅行での
服は大概変である。ツライ。今
回は通訳兼ガイドのショブジと
一緒にちょっと遠征した。去年の
夏の終わりから2回に分けてず
ーっとチンポムといいたのでお
互いかなりよく知っている仲
である。ショブジはバブル期の
日本の「魚民」でフルタイムで
働いていたために、アッラー
を信仰する気持ちが薄れ、毎夜
酒を飲むことしか考えていな
い。昼からぞわぞわだし、夜
どうやって飲むのかチラチラ
と車の助手席か

ら後ろに座っている私を見て
くるのである。バングラはイ
スラム教の人が殆どなので、
お酒は法律違反ではないが禁
止されている。が、バーがあ
り、ボロい建物の秘密の部屋
でお酒が売っていたりする。
ウイスキーが名産で美味しい。
地元の人が行くバーは、店内
がほぼ真っ暗でも見えず一
人でいるひとが多い。アッ
ラーの偉大なる神に背きや
ましいことをしているという
よりも、帰ったら家族や近
隣の人に、あそこんちのお
父さんお酒飲んでるよ、と
白い目で見られるのがやだ
なーという感じで飲んでいる。
ショブジにいたってはウチ
らのせいで家族に言い訳でき
るのか、鬼の首をとったよ
うに毎夜必ず飲む。今回は私
たちが空港について開口一
番、ちょっといいところ
行きましょ、エリさん行き
ますか? とウんともいう前
に地元の人しかいない設立
30年以上のふきささらの
建物の飲み屋に直行した。

バングラはほぼ外国人と
会わない。日本人と街中
ですれ違ったことは一度
もない。ビザが必要でバ
ックパッカーも突然には
行きにくいし、横の

アジアの若手作家を表彰する「Prudential Eye Awards」で
大賞に選出された次の日に、飲み過ぎて
息も絶え絶えながら空港で
発見した新聞。飛行機の中
にもあって周りの人がお
めでと声をかけてくれた。

